

漫録

泥海塵衢



T
生

今や日本は世界の三大強國の一つとなつた、而もたつた五
六十年間に、此の隆替を來したのだ。日本國民は實にえらい
國民だ、歐米諸國の現情に稽え日本が劣て居る點は餘りない、
精神文明から云へば、日本は世界の木鐸となり得ると云ふ事
も敢て過言ではない、文質文明から考へても只規模の大小の
相違に過ぎぬ、今日では西洋に有るもので日本に無いものは
ない、所が茲に只一つ歐米に後れて居るものがある、何かと
申せば都市の施設特に道路の現状である、都市を有機的に發
達させる事が即ち都市計畫の根本原則であつて、血管が不完
全では人間は生存が出来ぬ、家屋に譬れば各室に通ずる廊下

である、之を缺けば如何なる金殿玉樓も何等の價値はない、
此の位の理窟は誰でも知つて居ながら、其實現に努力せぬの
は實に不思議である、尤も不思議な事は是計りではない、立
派な邸宅を構え松葉一本でも氣にして居る日本の紳士が、道
路では丸で芥捨場の様に振舞て居るといふ始末である、此頃
出來た丸の内ビルディングは全々米國式の建物である、御承
知の通り建物其物が一つの街を形成して居る、即ち其の廊下
は天井のある街である、假りに此の廊下が現今の東京の道路
の様だつたら人は何と云ふだらう？ 必ずや其の愚を嘲笑し
其の不都合を非難するに相違ない！ 然らば何故に之と同様

の道路に就ては風馬牛吾不關焉と濟して居るのか私には其理由が分らぬ。或は國費多端の際道路の改良よりも更に焦眉の急を要する重大なる施設改良が他に澤山あると云ふかも知れぬ、然し之れは道路の改良特に大都市内の道路の改良が如何に國利民福の増進上に至大の關係を有し且つ其の良否が人生の健康と國民の思想上に及ぼす影響の重且つ大なるかを知らぬ愚人の言である、歐米諸國の道路を視るに恰も家屋の廊下に等しき感を抱くのである、幾分濕て居る時の夜分などは富士山ならぬ街燈の倒影が眺められるのは確に田子の浦以上の美觀である、尤も斯くの如く立派な部分は勿論都市全般ではないけれど併かし都市内では土を見る事は少ない偶々公園や植樹帯があつても毛氈の様な姫芝で覆はれて居る、故に西洋では今日却て如何にして都市生活者の自然と親しむと云ふ熱望を満足せしむべきかの問題に就て都市理事者は頭を悩まして居るのである、此の意味から云へば東京市民は幸である土を見る事も踏む事も容易に出来る計りでない土が遠慮會釋なく眼や鼻や口に入て來る、吁東京の都市計畫は歐米都市に比して幾分樂だとも云へるのは幸か將不幸か、

田園都市と云ふ言葉がある、樹木の植え込みの多いのか田園都市だとすれば、東京は或は田園都市であつたかも知

れぬが、然し眞の田園都市ではない、一種の畸形的田園都市である、然り而して我帝都は斯る不具者たるを許さない、帝國行政の中心であり商業の中心であり又工業の中心でなければならぬ、之が爲めには交通機關の發達改良を圖らねばならぬ、交通機關にも汽車汽船電車、自動車、馬車人力車等澤山あるが、都市の交通機關としては道路に依るものが其の主たるものである事は三才の童兒も容易に理解し得る事實である、所が其の道路の現状は如何であるか泥海塵衢と云ふ新熟語で盡くされて居る、先頃某外交官の子息で十二歳の少年が歸朝の際日本に就ての感想として其の第一に道路の著しく悪い事を指摘して居るではないか、如此き悲むべき情態にあるのは我等の風俗習慣が甚しく歐米諸國と異て居る事も其の原因の一つであらうが、又山家育ちで凹凸甚しき道路をのみ歩くに慣れた人々が偶々坦々砥の如き道路を步行して却て疲勞を覺え其の平坦なることを悲難する類であつて改良道路の眞の効果を知らないからでもあらう。

今や世の變遷發達の急激なること我等祖先の夢想だにしながらつた事で、運は寢て待てなど、呑氣な事では忽ち口が乾上る、自己の爲め計りではない、國民として今や不斷の努力をなし、同時に些少の勞力を以て最大の効果を集め得る途を講せ

ねばならぬ、能率増進と云ふ問題は何れの國でも最も眞面目に考究されて居る問題である、今日の東京市民が道路及其の交通機關の設備不完全の爲め能率増進上如何に不利不便の境遇にあるかは思ひ半に過ぎる次第である。

現今東京市では砂利敷として年々二百萬圓の巨費を投じて居る由であるが、之は丸で泥の中に金を捨て、居る様なものである、降雨の後重い車でも通れば忽ち消えて無くなる、又之に砂利を敷くと直ぐ粉碎される、丸で賽の河原の古事の様なもの、實につまらぬ話である。近年主要街路の一部分は舗装工事を施行して相當効果を示した事は同慶に堪えぬが然し牛の歩みで一向遅々として進行せぬのは遺憾の極みである。之には種々の理由や原因もあらうが最初から理想的のもの局部的に造らんとする方針の間違て居る事が主なる原因ではあるまいか。重い車が頻繁に通る道路は譬え單價は高くとも相當立派な舗装を施行する必要がある、然しこんな路線は自ら決て居る、而も其延長は左程たいしたものでもない、大部分は比較的簡單で且つ低廉の舗装で間に合ふのではあるまいか、特に歩道に至りては然りである、貧乏世帯で一足飛びに富豪の様に萬事完璧を望むは不可能である、偶々其の一旦だけ富豪の様な立派な品を備えて見ても他の家財道具が

不備だつたら何の役にも立たぬそれよりは下等品ながらも一通り揃た家財道具を有する方が如何に便利で如何に愉快だらうか、斯くて其の經濟上容す時節が來た時に、漸次之を改良して行く方が結局其の理想に達し得る確實なる捷徑なりと信ずるのである。

人口の都市集中は世界的の傾向にして都市の隆盛に赴くは其の國の文化を意味する、故に都市の健全なる發達を計る事は最も緊要である、偏頗の施設は健全なる發達を誘導しない、即ち各機能をして夫々活動を容易ならしめ得る爲め拙速普及主義を採用する事が今日の急務ではあるまいか、故に此の際多少の不都合はあつても速に舗装を普及する事が肝腎である、それには混凝土舗装もよいではないか、粗石塊で張たのでもよいではないか、斯る主義方針の下に進だならば東京市内に土を見る事が出來ぬ様になることは強ち左程遠き將來でもあるまい、之に依て能率は増進し益々繁榮に進み衣食足て禮節を知る茲に初めて道義の念を生じ來りて今日の思想善導とか何とかつまらぬ苦心や經費を要せずして自ら世は平安に赴くであらう、斯くて市民は愈々舗装の効果を體驗し之が一段の改良を希ふに至り従て道路の改良費を捻出する事も容易となり、茲に於て初めて歐米の都市に伍する事が出来るの

である。

歐米に於ける道路鋪裝の情況を見るに、交通機關の變遷に順應したる施設を、拙速普及主義に依つたもの多く、現に都市の郊外其他交通量の比較的少ない部分では、未だ不完全な鋪裝、例へば殆ど丸石に近い様な粗石塊で鋪裝してある場所が尠くないのである。斯る鋪裝では日本の様な足駄をはく國民には確に不便かも知れぬ、然し不細工な長靴を都大路、悉きすり廻す様な不體裁や、支關にぬぎ捨てた靴が一時間の會談後砂塵が靴の中に浸充して履くに容易ならざりしと云ふが如き滑稽事も起るまい。

今又道路の幅員に就て見るに、交通頻繁なる主要な街路に於てすら電車との車體外幅員は僅々十五尺乃至十八尺位しか無い、而も歩道が無い所が多い、有つても申譯に極く狭いものであるに過ぎぬ、而も其の間電柱其の他の路上建設物が林の様立ち並て居る、地先住氏は勝手に路面を専用して商品陳列して居るかと思へば、茲で荷卸荷扱等の都合な振舞をして居る、且つ直立しては通行出來ぬ位の低い日覆を路上に據けて居て、恰も歩道は自己の住居の延長の様に考へて居る、通行するものを見るに、自動車如き高速の車があるかと思へば、牛車の様な香氣な車も通て居る、其の間を燕の様に自

動車が疾驅して居る、是丈なれば未だよいが、歩道の設けありながら悠々と車道の上を馬隊で彷徨して居る婦人連があり、歩道の上を平氣で自轉車を乗り廻して居る不届者がある。

斯なん具合であつたならばいくら廣い道路を作つても、到底道路を有効に利用することは困難で、交通上の混雜を來し送能を減ずる計りである況や甚だ狭い道路のみなる東京市の現狀に於て、猶更此の感を深ふるのである。

昨年九月一日の震災は日本の文化を百年の昔に退歩せしめたるは不可抗力の天災とは云へ誠に遺憾の極みである。併かし行詰つた東京の交通を改善し因て以て眞堅なる都市の繁榮を圖る爲に絶好の機會を天が指命したのかも知れぬ、既に五年前から都市計畫法が施行せられて都市の改良に關し理事者も市民も相當努力して居た事は感謝せねばならぬが然し之が實地方法に就ては其の方針に誤があつた爲めか又は机上の空論のみに没頭して徒に時を過した爲めか又は理事者に於て實地に努めんとする熱が薄かつた爲めか又は市民の事業に對する了解なき爲めか兎に角一向進捗した様に思はれなかつたのは遺憾に堪えない一體日本人は熱し易いが又冷め易い國民が新しい事で珍らしい間は騎虎の勢で進むが終は脱兎の如しである都市計畫法でも道路法でも法律が出来さえすればそれで萬

事自然と改良されるものと思て居ると見え、之が運用に關し一向其の手段方法を講じない、講じたにしても當初熱の冷めない間だけで直ぐ忘れる、法律は只だ指針と後援となるに過ぎぬ、之が實行には當事者及國民の不斷の熱と力とを要する、如何に公益上必要なりと雖も、多數住民の生活の基礎を危くする様な事業は、之に代る可き他に方法が無い場合の外は餘程考へものである、丁度卑淺の身から立身した人が己れの姿を高貴の流れの様に改造したいと希ふて或は華族と婚姻を結ぶとか或は盛衰一夕を移して世間をごまかす事は出来ても生

れながらの目眉口等の下品な形を改める事は出来ぬ、即ち東京市の都市計畫としては今後益々發展せんとする趨勢を有する郊外地に速に一定の計畫に基ける路線を決定して市民の據るべき途を示し、以て其の開發に資すべきの急務なるを痛感して居たのであるが、徒に實現し難き理想欲にのみ支配せられたる計畫のみに没頭して居たのは可笑の次第である。現に歐米の都市に於ても最近交通機關の革命に伴ふ都市道路の幅員の極めて不充分なるを痛感し、之が改良を計畫しつゝありと雖も、既存の道路を擴張するは實行上不可能なるに想到して、他に新なる都市の中心を設けるとか、又は舊市街の狭い

のは交通整理其の他の方法で、之を緩和せんとする政策の下に、新市街地として其の郊外地へ百年の計を建て、著々之を實行して居る事實は、彼の地へ遊た者の誰でも容易に發見し得る事である。

此の意味から云へば去年九月の大震災は東京を都市計畫の理想案に從て改造するには誠に絶好の機會を與えられたのである。時の山本内閣も茲に見る所あり即ち復興院の新官制を制定し大に畫策せんとしたる事は双手を舉げて賛意を表すると共に山本内閣に期待する所甚だ多かつたのであつたが不幸にして原案は縮少又縮少遂に今日の如き悔を千歳の後に胎すが如き姑息の計畫に終た事は其罪無理解極暴の政黨員等にあると雖も斯る政黨員の存在を認めたる市民の無氣力も亦其罪の一半を負はねばならぬ。

今日我が技術的施設の發達が歐米諸國の夫れに比し遜色あるは種々の原因もあらんが、技術を統一する機關の缺けて居る事が其の一因であるまいか、例へば鋪裝工事を行ふにしても、群雄割據の情態にある種々の地下埋設の處分を着けねばならぬ困難があるため、事業の進捗上非常の障害あるのみでなく、國家經濟上莫大の損失を蒙て居るのであるが、

之が統一せる機關の下に屬して居たならば、恐らく今日の如き、無秩序不整頓の東京市を作らなくて済んで居たに相違ない。

震災前の東京市の道路幅員は誠に狭いものであつたから震災に際し數萬の生命と莫大の財寶とを灰燼に歸するの已むなき苦痛を砥めたのは數個月前の事だつたのを最早や忘れたのであらうか、忘れたとすれば餘りに健忘症であり、忘れないのに之が大々的改良を喚叫せざるは餘りに目先の見えぬ人々ではあるまいか、試に復興局の決定したる復興街路の計畫幅員を検するに七十三米突と云ふ稍廣い道路は僅に延長二百米で之を東京市内道路總延長に比すれば僅に〇、〇二「パーセント」である。幅員五十五米の道路延長五百八十米で〇、〇五「パーセント」、幅員四十四米の道路は延長六千五百五十米で〇、六「パーセント」、幅員三十六米の道路は延長六千五百四十五米で〇、六「パーセント」、幅員三十三米の道路は延長三萬六千四百二十二米で三「パーセント」、幅員二十七米の道路延長二萬四千三百九十一米で二、五「パーセント」、幅員二十五米の道路延長五千五百五十五米で〇、五「パーセント」、幅員二十二米の道路延長五萬三千九百五十四米で五、二「パーセント」、

即ち二十二米以上の道路延長は市内道路總延長の十二「パーセント」四七しかないのである、今此の二十二米の道路に軌道を敷設するものとすれば少くも十六米は車道とせねばなるまい、さすれば兩側の歩道幅員は二米宛しかない、是が已に將來の東京として不充分であるのに其の大部分の道路は幅員二十二米以下であるから、其の貧弱さ其の不便さは沙汰の限りではないか、歐米各國の諸都市では自動車の運轉に自由で安全な車道を築造して都市の輸送能率の増進を圖たのは、既に數十年の昔の事で、今では更に如何にして一般歩行者の爲めに安全にして且つ愉快なる歩道を築造すべきかを調査研究して居る有様である、我國が常に四五十年宛歐米(都市に後れて行かねばならぬ義理合でもあれば兎も角、斯る道理のある可き筈なく、寧ろ一躍彼等に超伍すべき努力を爲す事は三大強國民たる我等當然の責務なりと信する、戦時に於て成さんと欲して成し得ざる事なかりし我國民は、平和に處して何故に斯く無氣力であるか、斯くては吾人は永遠に都市生活の悲哀をかこたねばなるまい。嗚呼我帝都は永久に此の歎を脱する事が出来ないのであるか、吾人は切に東京市民の三省を促すものである」